

2020年3月23日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 視聴率動向と編成戦略

・視聴率動向

2月は月間視聴率で3冠を獲得することができた。特に当社がターゲットとする若年層からの支持を得ることができた。3月に入ってから、当社を含め、新型コロナウイルスのニュースを扱う番組に関心が集まっている。

・4月改編について

当社がターゲットとしている次世代視聴者にリーチしていきたい。水曜19時には「有吉の壁」を編成する。新しいジャンルのお笑い番組であり、若い視聴者に見て頂きたい。

BCタイムでは日曜朝の情報番組「シューイチ」を30分拡大、その後に「ニノさん」を1時間番組として編成する。「ニノさん」の後枠はお笑い第7世代中心の新バラエティ「第7キングダム」を編成、若い視聴者へのリーチを期待している。

水曜ドラマは「ハケンの品格」、土曜ドラマは「未満警察 ミッドナイトランナー」、日曜ドラマは「美食探偵 明智五郎」を編成する。

2. 営業状況

・放送収入

放送収入は2カ月連続で前年を上回り、2月は、タイムは前年比106%、スポットは97.8%、東京エリアの93.4%を上回った。スポットの在京5社でのシェアは30.1%で、このシェアは2月単月においては在京5社の最高記録となった。

2019年度は、デジタル広告の収入も前年比150%程度を見込んでいる。

・放送外収入

3月3日から開催予定だった「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」は今月いっぱい休館だが、ある程度、観覧者の安全確保ができれば何とか早めに開館したい。4月16日から開催予定の「ボストン美術館展」は1か月程度の開会延期を予定している。ライブエンターテインメントのアーティスト、出演者、スタッフ、会場関係者など皆さん、大変困窮しているので、なんとか、少しでも知恵を出し、観客の皆さんの安全安心を確保して、部分的にでも開会出来ればと考えている。

教育事業の「日テレHR」は、集団での研修ができない企業のために、新しくリモート型新入社員研修を開始し、すでに受注を受けている。

3. その他

・新型コロナウイルスへの会社としての取り組み・対策

積極的な在宅勤務を推奨しており約4割の社員が実施済み。時差出勤も実施している。社内での100を超える会議をオンラインで行い、社内の催しも控えるなど対策をしている。

・新型コロナウイルスの番組制作への影響について

海外ロケの多い「世界の果てまでイッテQ!」「アナザースカイⅡ」に影響は出ている。ドラマもロケ場所が使えなくなるなど影響が出ている。「収録時間を短縮する」「観客を入れない」

「出演者の人数を減らす」「エキストラの人数を少なくする」「マイクを共有しない」など対策を行っている。

・ **常時同時配信について**

NHKが開始したが、視聴者の反応や利用状況、権利処理コンディションなど注視しており、情報を共有して頂きたい。

・ **東京五輪放送の件**

「延期」という言葉が出てきているが、そうなった場合は対応していかなければならない。I O Cの決定を待ってから、どのような状況になってもすぐに動ける体制を取っていく。

(了)

小杉 善信	代表取締役 社長執行役員
廣瀬 健一	取締役執行役員
福田 博之	取締役執行役員